

序

周術期管理において、循環モニターと循環制御が重要であることに議論の余地はなく、すべての職種において、絶え間なく、また、意識することなくかかわり合っている内容と思われまふ。しかしあまりに日常で触れ合う機会が多く、つきつめてモニタリング機器の原理を理解したり、異常値が生じるメカニズムを考えたりする機会が少ないかもしれません。また、次々と臨床に登場する数多くの機器の功罪や差違を、包括的に整理する機会はさらに少ないかもしれません。しかしながら麻酔関連の学会での演題区分を見てみると、循環管理に関する演題比率はとても多いため、これらの領域の関心の高さと臨床の重要性が示されていることが想像されました。

そこでこのたび、循環管理を極める前の段階で、各種モニターをわかりやすく解説し、機種ごとの特徴や差違を網羅した書籍を作成できないかと本書を企画させていただきました。さらにこれらを理解するうえで、必要な原理の解説や実機の紹介、実例を挙げた循環管理も実践には必須と考え、これらを含んだ項立てをさせていただきました。麻酔科専門医をめざす医師の必携の書となることを願って制作を進めさせていただきました。

ご執筆に関しては、麻酔科および麻酔科以外の科目をご専門とする循環管理のエキスパートの先生方を筆頭に、これからの麻酔科学会を牽引していただける若手医師の先生方にも多くご担当いただきました。読者の皆様におかれましては、そのエネルギーを感じながら読み進めていただけますと幸いです。また、初稿を拝読して、私は予期せぬ嬉しい誤算がございました。これは執筆者の先生方の熱意で、わかりやすい表現でありながら内容的には成書にひけをとらない項が数多く存在していることです。このため各科専門医・専攻医・初期研修医・看護師・臨床工学技士など、どなたが手にされても臨床の参考になる項が多く含まれる書籍が完成したと嬉しく感じさせていただいております。

本書が臨床現場の皆様、ひいては患者様に大きな恩恵をもたらすことを祈念して、序文とさせていただきます。皆様のご活躍を心より祈念しております。

2016年4月

旭川医科大学 麻酔・蘇生学講座
国沢卓之